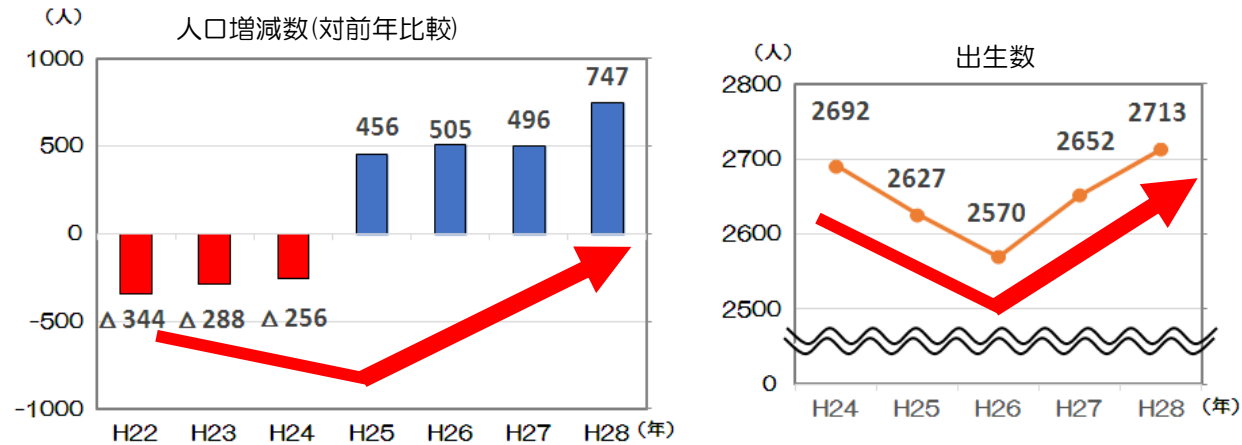


新年度予算(案)の基本的な考え方 (案)

○ まちの元気・活気の向上

明石市では「こどもを核としたまちづくり」の積極的な展開により、子育て世代を中心に、人口は4年連続して増加しています。加えて、人口増加数は拡大傾向にあり、また、出生数も順調に回復してきています。



こうした中、昨年は、市立明石商業高等学校野球部の春のセンバツ大会出場、冬のB-1グランプリスペシャル in 東京での日本一ゴールドグランプリ受賞など、明石のまちをさらに元気づける成果が続いています。

また、本年1月には、明石駅前再開発ビルが、日本一の本のビルとしてグランドオープンするなど、明石にさらなる魅力が加わり、中心市街地のみならず、まち全体が活性化してきています。

○ 3つの重点的取り組み

「積極的な施策展開」、「まちの元気・活気の向上」といった「好循環」の創出をさらに拡大させ、総合戦略に掲げた『人口30万人』『出生数：年3000人』『本の貸出冊数：年300万冊』のトリプルスリーの実現に向け、「住みたい、住み続けたいまち」をめざし、次の3つに重点的に取り組みます。

①こどもを核としたまちづくりの重点化・加速化

こども総合支援条例の施行にあわせ、こども関連施策の一層の充実と先駆的な取り組みを進めます。

②あかしの魅力の創造発信

明石の特色をより効果的に発信するとともに、市制施行100周年・明石城築城400年に向け、新しい魅力の創造に取り組みます。

また、こどもを核としたまちづくりに加え、本のある文化の薫り高いまちをめざします。

③未来へ向けたまちづくり

市民基点のもと、一層の権限と責任をもって、迅速で効果的なサービスが提供できるよう、平成30年4月の中核市移行、平成31年4月の児童相談所設置に向けた準備を着実に進めます。

新年度の重点的な取り組み

①こどもを核としたまちづくりの重点化・加速化

・あかし里親100%プロジェクトの実施(P.16)

児童相談所設置後の0歳から就学前の子どもの新規里親委託率100%をめざして、体験里親の登録制度や里親フォーラムなどを実施します。

・「あかし版 こども食堂」の市内全域への展開(P.17)

家庭と学校以外のこどもの居場所として、あかし版「こども食堂」を市内全域に設置することをめざして、順次開設していきます。

・ひとり親家庭への日常生活支援(P.17)

児童扶養手当相当額の毎月支給をはじめとして、ひとり親家庭の状況、支援内容を調査するモデル事業を実施します。

・保育所の待機児童解消に向けた取り組み(P.19)

保育所の受入枠を1200人へと更に拡大するとともに、必要となる保育士の確保のため処遇改善の実施など、保育の量と質の向上に向けた様々な取り組みを進めます。

②あかしの魅力の創造発信

・本のまち明石の推進(P.3、P.36、P.37)

明石駅前のあかし市民図書館開館を契機に、市独自で採用した学校司書による子どもの読書活動の推進、移動図書館の拡大充実など、学校図書と連携した取り組みを進めます。

また、「本のまち明石」の展開を本格的に推進するため、(仮称)本のまちづくり条例の検討などに取り組んでいきます。

・市制施行100周年記念事業に向けた取り組み(P.3)

平成31年の市制施行100周年、明石城築城400年に向けて、明石の魅力を発信し、次の100年のまちづくりにつなげます。

・シティセールスの推進(P.2)

明石に愛着と誇りを持つことができるよう市内外にまちの魅力を広く発信する取り組みを進めていきます。

③未来へ向けたまちづくり

・中核市移行に向けた取り組み(P.4、P.16、P.20)

平成30年4月の中核市への移行に伴い、約2,000件に及ぶ事務の移譲にかかる準備を着実に進めていきます。

・市民の健康を高め、生活を守り、質の高い保健衛生サービスを提供する「保健所」の設置

・動物と人間が共に暮らしていけるまちづくり、殺処分ゼロをめざした「動物愛護センター」を設置

・市制施行100周年の年となる平成31年度には、こどもの命と権利、未来を守る、児童虐待ゼロをめざした「児童相談所」を設置

